

養殖衛生管理体制整備（内水面）

葦澤崇博・高橋芳明・中山仁志（内水面試験地）

1 目的

養殖アユを中心とした内水面養殖魚の防疫指導（魚病診断・指導，種苗導入直後の保菌検査や医薬品残留検査等）を適切に行うことで，疾病のまん延防止を図り，安心・安全な水産物の生産・供給体制を確立する。

2 方法

- 1) 魚病の診断・指導：アユは養殖業者から診断を依頼されたものや防疫パトロール時に採取した検体について，外部症状や内臓の病変等を観察するとともに，寄生虫の有無を調べ，腎臓から菌分離を行った。分離菌は抗血清又はPCRにより同定し，必要に応じて薬剤感受性を調べた。ニシキゴイは，養鯉業者や個人愛好家から診断を依頼された検体について，KHVのPCR検査を行った。
- 2) 保菌検査：アユ養殖業者，河川漁協等を対象に導入直後と放流直前の種苗について保菌検査を行った。対象とした疾病は，冷水病，エドワジェラ・イクタルリ感染症である。
- 3) 医薬品残留検査：投薬歴のある出荷直前のアユを対象に平成24年7～8月にスルフィゾゾール，フロルフェニコールの残留検査を行った。スルフィゾゾールは2業者から採取した各3検体，計6検体，フロルフェニコールは1業者から採取した4検体について，財団法人日本冷凍食品検査協会（関西事業所）に分析を依頼した。

3 結果及び考察

- 1) 魚病の診断・指導：平成24年度のアユの疾病検査は36件行い，その内，冷水病が3件，冷水病と他の疾病との混合感染症7件，異型細胞性鰓病（ボケ病）1件，細菌性鰓病1件，細菌性鰓病と他の疾病との混合感染症1件，細菌性出血性腹水病（シェードモナス病）3件，ビブリオ病8件，ビブリオと他の疾病との混合感染症3件，エドワジェラ・イクタルリ感染症2件，エロモナス症1件及び不明病が6件であった。

薬剤感受性については，冷水病菌はスルフィゾゾールに高い感受性を示した。ビブリオ病菌はオキシリン酸及びオルメトプリム配合剤に高い感受性を示したが，スルフィゾゾール及びフロルフェニコールに対しては感受性が低い場合や無い場合も見られた。なお，スルファモノメトキシシンについては，ビブリオ病菌に高い感受性を示す場合，感受性の低い場合・無い場合がみられ，その菌株による差と考えられた。

KHV検査は，養鯉業者のニシキゴイで4件行い，すべて陰性であった。

- 2) 保菌検査：平成24年度のアユ保菌検査は19件行い，全ての検体が陰性であった。
- 3) 医薬品残留検査：アユの医薬品残留検査は，スルフィゾゾール6検体，フロルフェニコール4検体について実施したが，いずれも残留は認められなかった。